

HSK NPO 法人「文福」ニュース



# 「障」ちゃん



NO.286

## 冒頭の一言

(6)

大変眠い季節になってきました。

皆さん起きていますか？私は寝ているかもしれません。

寝ている内に世間では春一番が吹いたと思ったら、とうとう今となっては桜吹雪が吹き始めようとしています。

花が散る前に、満開の桜を見るために外出しましょう。

春があなたを待っています。くれぐれも、足元の凸凹に気をつけて。

春の明るい陽射しがあなたを待っています。

皆さん、どんどん春の陽気に浮かれて外出しましょう。

それと、「障」ちゃんニュースも忘れずに。

### —もくじ—

冒頭の一言 … 1

講演会「能登半島地震の被災 障害者支援に向けて」 ゆき … 2-3

午後の最も長い1日 日下正秀 … 4-5      アルバイト紹介 … 6

「まっち」28号の原稿大募集 … 7      ありがとうコーナー… 8

HSK 毎月一回(一、三、五、八、一〇、一三、一五、一八、二一、二三、二五、二八日)発行

## 講演会

### 「能登半島地震の被災 障害者支援に向けて」を聞いて思うこと

ゆき

2 月 3 日にサンシップ富山で開催されました講演会「能登半島地震の被災 障害者支援に向けて」に参加してみると、1月の地震を経験して感じたことを、ヘルパー視点から書いてみたいと思います。

1 つ目は事前にどうするか決めておく、ということです。

自然災害全般に言えることかと思いますが、安全確保はどうやってするのか、避難をするとなったらどこへ行くのか、どうやって行くのか、などを決めておくことはたくさんあるかと思います。また、利用者によってはヘルパーがいない時間帯がある人もいるかと思います。そんな時に障害者本人、または事業所がどうするかを事前に考える必要があると感じました。

さらに、ヘルパーによっては複数の利用者を担当している場合があるかと思うので、ヘルパー自身が緊急時にその利用者ごとにどうするかを確認しておく必要があるかと思います。もちろん利用者本人もどうするかしっかり把握しておかなければならないと感じました。

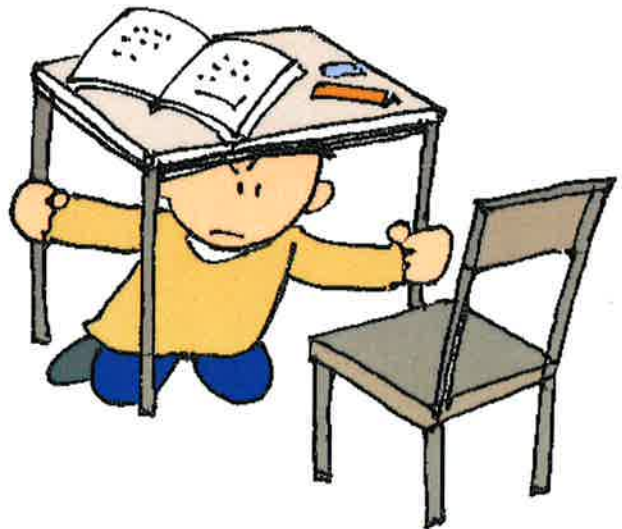
講演の中で参加者から今回の地震当日の様子を聞きたいというのがあったのですが、その中で避難をあきらめた人がいたそうです。あきらめた要因は色々あったかと思いますが、そのひとつに事前にどうするか決めていなかったから、があったのではないかと思っています。

2つ目は備えておく、ということです。

非常持ち出し袋の準備、ハザードマップの確認、あとは講演の中の意見で住んでいるところの海拔を調べてみるといいというのもありました。他の大地震の経験から様々な備えがあるかと思うので、参考にして自分でできる範囲でやればいいのかと思います。

そのほかにヘルパーと利用者が一緒に避難訓練をしておくというのもいいのではと思いました。実際にやってみないとわからないこともあるかと思うので、防災意識が高い今、やってみてもいいのではないのでしょうか。

自然災害はいつ起こるかわかりません。今回の地震も元旦に発生したわけですから、準備だけでもしておかないといけないかと思います。



## 午後の最も長い 1 日

日下 正秀

あの日あの時、もうそろそろ日が落ち始めるころ、元旦なのに酒も飲まず新聞を読んで居た所、ベッドが激しく騒ぎ始めた。テレビから突然、「緊急避難速報」の警報とアナウンサーの絶叫が鳴り響いた。最初の揺れが少し収まってから、やっと地震だと自覚できた。そのうちにもっと強く揺れたが、揺れるというよりは、体全体が背中から天井に向かって突き上げられるような感じだった。咄嗟に何かどうにかするわけでもなかったが、とりあえず気が付いたこととして、ストーブの火を切る事とガスの元栓を閉めてくれと言って閉めてから、あとは時の流れと地面の揺れに身を任せながらテレビ画面を見ていた。その時考えていた事は、「ヘルパー 1 人では避難は出来ないだろうな。出来たとしても場所がないだろうな。寒いイチコロだろうな。」そんな感じで他人事のように頭の中が回っていた。一言で言えばジタバタしてもしようがない、そんな感じだった。そのうちに安否確認で久保さんが血相変えて入ってきた。ヘルパーと二人してのんびりとでもなかったが、テレビ画面を見ている状況に、かなり呆れ返りながら、「ここは浸水する危険性が高い、神通川のすぐ横だから。」と言って、たまたま昼間のうちにシャワーに行くために使っていた車があったので、とにかく高いところを目指そうと呉羽山の方に向かって走った。同じような車が、旧 8 を埋め尽くして渋滞していた。結局、事務所の駐車場で 2 時間ほど避難して落ち着いたように感じたのでようやく自宅に戻った。今生き残っても避難所でサバイバルは出来ないだろうなとか寒さに即やられてしまう。福祉避難所を探してもいないし、そもそもあるかどうかもわからない。命があるだけで丸儲けというのが、儲けを味わっている時間の余裕はないだろうなどと思っていた。とにかく悲観的な考えしか思い浮かばない。本当はいくらこんな事をグダグダ書き連ねても意味がない事はよく解る。ここで書くべきは、大事に至った時に危険からなるべく身を避け、安全な所を常日頃から探し確認し、いざという時に然るべき準備をして速やかに避難する。そんな事なんか出来るわけ無いじゃないかー！と騒ぎたくもなってくる。福祉避難所は見たこともなく実態は知らないのだが、新聞やテレビなどの報道を通

じてしか知らないが、24 時間介護が必要な障碍者にとっては、常日頃から避難所生活のようなものだ。駐車場から帰ってきて、いきなりいつもの日常に戻ってしまった。テレビを見ながらいつものように焼酎を飲みながらつまみを食べ、いつものルーティン通りに寝た。ただその日の夜はいつもだったらズボンを脱いで腰巻を掛けて寝ているのだが、その時ばかりは不安が非常に強く、電気を切る前に思い直してズボンをわざわざ履き直して寝た。ヘルパーに「何でこんなことするんか？」と聞かれたが返事はしなかった。答えるのも面倒くせえし、デリカシーのない奴だと思いながら寝た。(ズボンををはいた理由は、ベッドから車イスへ移乗する時、ベルトを持たなければならないからだ。つまり生き残る気だけは満々という事。) 全面的な介助が必要な障碍者が、火事や地震、天変地異の災害などにあった時に出来る事は、ほとんど無い。せいぜい出来る事は、生きている事、そして助けが必要なこと、見捨てるなと叫ぶことを周りに発信し続ける事ぐらいか？いや、それさえも介助が必要となってくる。24 時間日常的に介助が必要な者にとっては、毎日が非常事態のようなものだが、その上で災害が起こったときの事を頭の片隅に置きながら、周りを見ておく必要があると思う。避難経路や避難場所は、高い所か？逃げれる所か？四六時中とは言わないが、どうすれば生き残れるか考えながら皆さん生き残りましょう。災害は待ってなくてもやってくるぞ〜。



## 「やってみられ」という神の声が!

アルバイト みつつん

11 月から勤務させていただいている「みつつん」です。

ある日、呉羽の旧8を車で走っていたところ、「文福」を見つけました。「ザ・カイジ ヨ」のチラシをみたことがあったので、ここに「文福」があるんだあというという感覚とともに、「あ、やってみようかなあ」「自分の時間をいろんなことにつかってみようか」と思うと同時に、「やってみられ」と頭に神の声がおりてきて、今につながっています。正直、はじめてのことだらけで、失敗だらけ。相手に伝わらないということが、どれだけ歯がゆいことかを日々感じ、反省の日々。でも失敗は続く!!(一一)

私は昼間の仕事で、障害のある方と一緒に働いています。なので、伝わらない、どう伝えていいか分からない、ということが、どれだけしんどいのか、「文福」のアルバイトをとおして日々意識するようになりました。自分の時間をいろんなことに使ってみようと思った「介助」の仕事が、自分の学びの時間になっています。

自分自身の意思が大切にされることが、あたりまえな社会になりますように。

## 「まっち」 28 号の原稿大募集

季刊誌「まっち」個人史・社会問題・そして人と人を結ぶことを目指し発行しています。

その「まっち」27号テーマ『ふるさと』を発行する事ができました。

これもひとえに皆さんが原稿をお寄せ下さったおかげだと思っています。この場をかりてお礼を申し上げます。m( )m

さて、次号のテーマは『花』です。

私達はお祝い、記念日、感謝、労う、弔う時など様々な場面で花を相手に渡します。

また、誕生花や花言葉も色や本数によって意味合いが多種多様です。貴方にとっての『花』に関する事や、『花』から連想される事などを『まっち』にお寄せ下さい。皆さんからのステキな原稿をお待ちしております。

原稿締め切り 2024 年 4 月末日 発行 2024 年 5 月末

もちろん、他のテーマや詩や俳句、川柳、短歌、イラスト(絵)等の原稿もお待ちしています。

メールでの投稿は、 [macchitti@gmail.com](mailto:macchitti@gmail.com) に

FAX での投稿は、 (076) 460-0390 に

郵便での投稿は、 〒930-0138 富山市呉羽町 7276 - 3

NPO 法人 文福 『まっち』編集係

までお送り下さい。よろしくお願い致します。

尚、『まっち』を一読されてみたい方、文福事務所に常時置いてあります。上記に記した連絡先にご連絡ください。

『まっち』編集者一同

## ありがとうコーナー

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後もよろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



早いもので、もう4月です。春です。春は明るい季節なので、気分も新たに頑張りたいと思います。しかし、今年の冬は、雪が降らなかったため、3月になってからも寒くて、雪が降る日もあり、まだまだ、春らしくありません。

でも、ふきのとうやホタルイカが取れ始めていて、季節は、春になって来ているのだなあと感じている今日この頃です。

(アパッチ) より。

### \* 2023 年度新規会員・継続会費 \*

近藤 光子さま

### \* いただきもの \*

落合 里美さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉312

編集人：特定非営利活動法人 <sup>ぶんぷく</sup> 文福

〒930-0138 富山市呉羽町7276番地3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <https://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 460-0390

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。